

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0770401768		
法人名	社会福祉法人養生会		
事業所名	グループホームかしま		
所在地	福島県いわき市鹿島町下蔵持字里屋13-1		
自己評価作成日	平成23年12月22日	評価結果市町村受理日	平成24年6月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年2月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

立地条件として、ホームが住宅街にあり近隣には併設の施設、病院があります。また、子供たちの通学路が目の前にあり人の声が近くから聞こえたり、様子が見え日常生活を自然に受け止めることが出来ます。近隣の方達との交流もボランティアさんを通し行っており、普段から外での会話もあり、利用者さんの様子を理解していただいております。法人内の施設との合同での行事や避難訓練、ホームで一緒に食事を楽しむなどしており、緊急時にも利用者さんの顔が確認できるような協力体制を取っています。また、近隣で採れる野菜を購入したり、ホームで作った野菜を食事にし、季節の食材を通し季節の移り変わりを食を通し味わっていただいております。また、医療連携により24時間体制による緊急時の対応もスムーズに行っていただだけ、安心した生活を送って頂いております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1.法人として地域との交流に積極的に取り組んでおり、事業所は日頃から地域に出向き、近隣の人と触れ合う機会を多く持っている。ボランティア等の受け入れや近隣の協力体制も構築されている。  
 2.敷地内には法人の病院や事業所があり、病院との医療連携を図り安心して医療が受けられる体制にある。また、法人の事業所と連携し災害時の対応を行っており、利用者や家族の安心につながっている。  
 3.新鮮な食材を取り入れ、食を通じて季節を感じる事が出来るよう、取り組んでいる。共に楽しみながら支援している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常に於いて職員全員が、その趣旨を理解し、地域の一員として、行事参加や日々の関わりを通し利用者が、自然体で地域住民として暮らし、円滑に関わっていけるように支援している。	地域密着型サービスの意義を反映した理念となっており、管理者と職員は定期的に理念について話し合い、具体的な実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花見、子供みこしの来荘、柏餅作り、夏祭り、小学生との交流会、地域の子供さん達との餅つき大会等へ参加し地域の方々との交流を図っている。	法人内施設と共同で開催している各種行事には、地域の方々の参加協力をいただきながら交流を深めている。また地域のお祭りや保育所の運動会等にも参加している。保育所や小学生たちとの交流には利用者の微笑む姿が見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	4/w回ボランティアの方が訪問され、そのうち3名のかたは、ホームの隣組の方である。相談等受けたりするときには、当法人で関わられる内容であれば、上長と速やかに相談し近隣の方へのご協力を実施して行く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	避難訓練時、近隣の方の協力体制について相談し、アイデアをいただきそれをきっかけに近隣の方とのつながりがある。	定期に開催される会議では事業所の取り組みについて報告するとともに、会議メンバーから情報やアイデアをいただいている。避難訓練時の近隣の協力体制について相談したところ、協力関係を築くことが出来た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は、会議の開催案内や、議事録を毎回直接地区センターへ持参している。職員さんとの面会や、会話の機会を多く持ち情報の収集や知識の習得に努めている。また、介護相談員をつじて、相談事項も共有し意見を載している。	市町村担当者を毎月訪問し、事業所の取り組みを伝え、協力関係を築いている。震災による避難者の受け入れにおいては、避難地域の市町村担当者とも連携を取りながら対応した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束についての業務研修あるいは、外部研修を受けており、具体的な行為を正しく理解し業務を行っている。施設内の施錠についても利用者の信頼を損ねるような対応ではなく、常に自由に外部との交流が取れるような体制を心掛けている。	研修を重ね、全職員が拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関は施錠せず、利用者は自由に出入りしている。安全の為、職員の見守りを徹底するとともに、近隣や法人内事業所にも見守り、声かけの協力体制を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市内外の研修を通しミーティングや業務研修の折に、高齢者虐待防止関連法について全職員が理解し浸透、遵守がなされるように話し合い、実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	福祉の社会が複雑化しており、それを必要としている方たちが増えている事を理解していただくためにも、具体的な内容を提示しながら、知識向上に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はケアに関する考え方、実際の取り組み等を出来る限り丁寧に分かり易く、説明している。利用者の状態変化により、やむを得ない契約解除に至る場合等も、本人、家族と話し合い納得の上行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市から介護相談員の派遣や、4/Wのボランティアの方との関わり、第三者委員の来訪、支払い時の家族との面談等により自由な意見交換の場が設定され、意見や相談を吸い上げ、ホームの運営に役立させて戴いている。	家族の訪問時は必ず面談の機会を持ち、利用者の情報や意見を交換するよう心がけている。毎月介護相談員の派遣があり、またボランティアや第三者委員等の訪問により、外部者へ意見を表せる機会も設け、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、月1回の職員会議及び業務研修、年2回法人で実施している自己評価を踏まえた個人面談等で、積極的な意見を尊重し、コミュニケーションを密にすることで、運営を円滑に行けるように努力している。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心がけている。担当職員の意見を十分に聴き、運営に反映している。また職員一人ひとりの得意分野を活かしながら、働く意欲を向上させている。職場の雰囲気は明るい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の持ち味があり、それを発揮できるように支援。個別面談を通じ本人からの仕事への取り組みや、思い等を聞くなどし、職員にとってやりがいのある職場の設定が出来るように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の業務研修、法人内外の研修を受ける機会を確保し、職員一人一人の知識向上を図る。また、毎日実施しているミーティングにも積極的に意見を出し合ったり、ケース記録の書き方、報告書の書き方にもアドバイスし向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム協議会に所属し、いわき地区で開催されるスタッフ研修会では学習の機会や、知識の習得、意見の交換など交流を深め、共に学び質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴や入所に至るまでの経緯を職員全員が共有し、本人が生活して行くホームに早く馴染んでいけるように声掛け、気配りを行いながら、本人の思いに寄り添う関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	長い間悩んだ末の決断を大事にし、契約時にもどのような生活をされてきたのかを伺ったり、家庭での様子を細かくお聞きし、入所後もどんな小さなことでもお話のできる機会をつくりながら、ホームと家族との信頼関係を作っていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームへ入所されたことで家族が安心してしまいうのではなく、入所後どのような生活が本人にとって望ましいかを、面会時や、報告時に家族の方と話し合いながら、一人一人の生活支援をしていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は生活を共にし自然体で支えあう関係を、大事にしている。年下の世代である職員が年長者である利用者に来ること、そして年長者の利用者が職員へ伝授できること等、色々な場面を通し支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の面会や、行事参加の機会には、利用者とともに過ごす時間を共有しながら、家族の思いや日々の生活での職員の気付きなどを、情報交換し利用者と一緒に支えている事を確かめ合いながら、支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの人間関係や、社会性への維持継続の為に、子、兄弟、親戚、知人等いつでも来訪したり、外出しやすい雰囲気づくりに努めたり同敷地内の病院や施設などへの、お見舞いや訪問をしたりしている。	利用者の生活歴について把握し、家族や友人が訪れた時には快く迎え入れたり、外出や外泊の希望があれば知人や家族と連絡を取り対応している。以前入所又は入院していた法人内事業所を訪問する等馴染みの関係継続に勤めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	世代の相違、生活環境の違いはあるが、根気強く調整しながら、世話好きの方に説得力を発揮して頂いたり、力関係や個性を生かし利用者同士が共に支えあいお互いのよさを認め合う関係作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了された方や家族にも気軽に立ち寄って頂いたり、相談事にも応じられるように継続的に培った関係を大切にすることを心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、本人の発する言葉や表情、行動をキャッチし、望まれている物を把握できるようにしている。また、中々思いが、汲み取れない方には、家での生活ぶりをお聞きし、本人の意に近づけている。	日々のかかわりの中で、一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。把握が困難な利用者に対しては、家族や関係者から情報を得ながら、本人の視点に立った話し合いを行い対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、面会の際の家族への聞き取りや、利用者と家族との会話の中からヒントを探り現在の生活に活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の永年の生活習慣や生活歴を参考にしながら、一人一人の生活リズムを理解するとともに現在の心身の状態や本人の持っている能力を、日々の観察に基づきながら、支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族との日頃の関わりの中、思いや意見をくみ取ることでアセスメント、モニタリングに活かし毎日のミーティングを中心に職員全員で様々な視点からの意見やアイデアを出し、介護計画に生かしている。	介護計画は定期見直しはもとより、本人、家族の要望や変化に応じて、全職員でモニタリングやカンファレンスを行い、意見やアイデア出し合いながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録用紙に工夫を施し、身体状況、利用者関係、家族、職員との関わりや、本人からの思い等を記録できるようにしている。また、ケアプランの内容に沿っているかどうか確認できるように活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の中で発する言葉、思いを利用者さんの記憶に近づけられるように、実現可能なものは即実行へ移している。その人、その場にあった支援をすることにより利用者の方の信頼に近づけられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方のボランティアの継続的な受け入れ、推進委員会の民生員との情報交換、母体と合同の地域行事参加、近隣小学校、保育所との交流等を通し、一人一人が楽しむ機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制での医療連携を協力病院と結んでいる。月2回の訪問診療、隔週行われる健康チェックにより利用者の状況をいち早くキャッチし主治医と連携を取りながら、)対応している。	法人内病院と医療連携を結んでおり、受診時の支援をしているが訪問診療も月2回ある。入居後もかかりつけ医の受診は可能であり、家族と受診する際も互いに情報の共有に努め、連携を取りながら適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日2回ホームでのバイタルチェック、健康チェックかしま荘師長による巡回、日々のデータをもとに看護師と相談しながら、主治医の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による弊害を防ぐためにも、入院時は家族とともに担当医からの説明を受け、情報提供等を行っている。入院期間は職員が、毎日見舞うことで、本人の状態観察、確認をし、併せて退院へ向けての連携も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に関する指針をもとに本人の状態変化に素早く対応し、家族、協力医、看護師、管理者がその都度話し合いを持ち、本人、家族の思いを優先にしながら、対応方針へ繋げている。	重度化した場合の指針があり、入居時に家族と話し合い、同意を得ている。状態の変化に応じて家族や利用者の思いをくみ取りながら、協力病院と連携しチームでの支援に取り組み、実際に看取りを行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所轄の消防署、グループ協議会、母体法人の協力を得て救急手当や蘇生術、AEDの使用法の研修を実施している。法人としてのマニュアルがあり、周知徹底に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設法人合同の消防訓練、その他の災害対策に向けての訓練や防災委員会に参加、月1回はホームでの独自での訓練と利用者への啓もうを行っている。今回の震災での教訓から、かしま荘との日々の連絡体制の強化を進めている。	併設する法人の事業所と合同で年1回総合防災訓練を行う他、事業所独自でも毎月、出火場所を変えたり、夜間を想定した訓練を行っている。地域の消防団や近隣の協力も得ている。震災時には法人の施設に避難し連携して対応した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングや業務研修の折、年2回行われる個人面談の中で、職員としてあるべき姿、対応を周知徹底している。人生の先輩としての利用者一人一人の誇り、プライバシーを大切にしたい支援を行っている。	ミーティングや研修、面談の際など、折に触れ職員としてあるべき姿を話し合い、利用者の人格を尊重しプライバシーを大切にしたい支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、利用者本人が希望や考えを自由に述べたり、物事を選択し決定したり、本人の表情から汲み取ったりできる場を数多く設定し、自然体で受け入れることで納得のいく暮らしの実現を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の基本である1日の流れを目安に、それに固辞することなく、一人一人の心身の状態を優先し、その日その時の本人の気持ちを大切に希望がかなうように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の生活習慣や、好みを知り、身繕いなど本人の意向が十分反映できるように、本人と話をしながら、自己決定をしている。行事や外出の際は、お化粧やおしゃれを勧めたり行きつけの美容院や、理容への継続もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	自前の畑で採れた野菜や、生みたての卵等の素材と一緒に下ごしらえしたり保存食作りに手を借りたりすることで、調理したものを揃っていただくことで満足や達成感を得、食の楽しみを味わっていただいている。	事業所で飼っている烏骨鶏の卵や畑で採れた野菜を素材に使い、一緒に下ごしらえをしたり保存食を作ったりしている。全職員が利用者と同じテーブルに着き、話しながら食事を楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を一人一人チェック表に記録し確認をしている。一人一人の嗜好や習慣へも配慮しながら、状態の記録と併せて観察し、把握確認をしている。また、毎月体重測定をし、健康管理に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛け誘導を行い、見守りや、介助の支援も各々の能力を見極め行っている。就寝前の入れ歯の管理や、手入れも、習慣や意向も踏まえて、無理のないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄チェック表を使用し時間帯、習慣、排泄間隔を把握し、さりげないトイレへの声掛け、誘導、介助を行い失禁を防ぎ、パットの使用軽減を図っている。失禁時は速やかに対応し不快感を取り除いている。	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握しトイレ誘導をしている。リハビリパンツやパットの利用者に対してはプライバシーに配慮しながら失禁時の対応を速やかにし、不快感をなくし清潔でいられるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、食材と献立の関係、乳製品の摂取腹部マッサージ等の効果も取り入れながら、一人一人の習慣や、原因等にも考慮し自然排便が可能になるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人のその日その時のタイミングに合わせて、入浴を行っている。仲の良い方同士の入浴、拒否しがちな方の時間帯や、職員の使い分け、好みの温度への配慮等、楽しく入浴できるような工夫を行っている。	事業所では毎日入浴の準備をして、本人の希望によりいつでも入浴できるよう支援している。また季節を感じてもらえるよう、菖蒲湯や柚子湯などを取り入れ、楽しく入浴できるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中無理のない活動を推進することで、生活リズムを作り、安眠に繋げるように努めている。夜間安眠できない方には、温かい飲み物の提供や会話、スキンシップを図り不安感を取り除く工夫も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを整備し内容の把握、変更等の確認をスムーズに行い、変更時には職員間、往診室との連携を図れるようにしている。また、服薬が確実にできるように、人により介助をしたり、服薬後の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意だったことや、好きな分野をリサーチする。例えば、調理の手伝い、縫物、洗濯たみ、絵本の朗読等日常的に場面を設定し行っている。行事参加、外出なども利用者に伺い決定している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節、天気、その日の体調や希望に応じて、心身の活性化が図れるように、散歩、買い物、行事参加または、ドライブ等の外出支援を行っている。また、どうしても人手がほしいときには、ボランティアさんにも参加していただき協力を仰いでいる。	食材の買い物に出かけたり、近くの寺院や結婚式場のバラ園に散歩したりしている。また、併設する施設のギャラリーに行き、コーヒーを飲んだり会話を楽しんでいる。バス旅行なども企画されており、楽しく参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は原則として、行っていません。ただ、持っていないと不穩になる方がおり、家族さんとお話しし、手元に置いてもらっていますが、常に金額を確認をしている。行事でお金がほしいときには、施設から、お小遣いを渡し使用して戴いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族のご了解を得ている方には、電話での会話を行っていただき、本人の不安感や、孤独感の解消に役立っている。お手紙等も本人の了解があれば、職員が代読したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のフロアはゆったりとして居て、利用者が、何時でも自由に安心して居室やプライベートな場所に行き来でき、音や光などにも配慮がなされている。利用者同士が気さくに声掛け出来る環境になっている。	共用空間のフロアは、天井が高く、外から光が射し込んでいる。室内は掃除が行き届き、壁面には利用者の書いた習字、節分の鬼や灯台の風景画等が飾られている。テレビの前のソファ、テーブル、椅子等それぞれに好きな場所でゆったりと寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いに会話のできる方がおり、共用空間のフロアがお互いの気持ちを吸い取ってくれる場所になっている。バラバラな行動はあまり好まず、皆と同じところに居たい気持ちを大事にしながら、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	居室は一人一人の個性を尊重した馴染みの物、その方にとっての必需品等が持ち込まれている。写真、永年愛用している小物等本人、家族と相談し、配置を工夫しながら使用して戴いている。	洋室と和室があり、ベッドやタンスは備えている。室内は広く収納スペースも十分にあり利用者の馴染みのものや愛用品が持ち込まれている。居室担当者が利用者や家族と話し合いながら、居心地良く過ごせるように配置などを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の行動や能力を職員が把握することにより、利用者の能力の度合いが分かり、混乱、失敗を未然に防ぎ、住みよい環境を提供し、出来るだけ自立した生活を送っていただけるように工夫をしている。		